

那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2026年3月11日 週報 第2792

会 長 丸橋弘和 副会長：中村 敦・小林 充
幹 事：江夏正浩
例会日 毎週水曜日 12 時 30 分
例会場 沖縄ハーバービューホテル
事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6 階
TEL：861-7824 FAX：861-7825

よいことの
ために
手をとりあおう

Rotary

UNITE
FOR
GOOD

Rotary

2025-26年度 RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ

地区ガバナー 中川雅雄
今年度会長テーマ

「Dignity」 & 「Engagement」

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を
深めるか
4. みんなの為に
なるかどうか

- ・本日のプログラム
3月25日(水)
- ・点鐘
- ・ロータリーソング
- ・日も風も星も
- ・会長報告
- ・幹事報告
- ・立食

例会報告

第2927回(2026年3月11日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	訂正出席率
58名	31名	26名	54%	%

欠席会員

石川(正)、大原、新里、大城(博)、宮内、福重、比嘉(広)、照屋(紀)、小林、比嘉(芳)、中村、南風原、仲程、福本、稲嶺、川畑、大城(美)、与古田、大山、宮沢、石川(元)、比嘉(圭)、近藤、小嶺、野原宮城(圭) 会員

出席報告 3月、

会員数	3日	11日	18日	25日	日	平均
59名	45%	54%	-%	-%	%	%

ゲスト

井上結喜(那覇西奨学生)

メイクアップ会員

丸橋弘和(3/11 石垣) 中村 敦(3/11 石垣)
小林 充() 仲程通秀()

3月度お誕生日祝い

宮内一郎(3月11日) 大城博成(3月17日)
照屋俊幸(3月20日) 小豆澤卓也(3月29日)
池田大輔(3月29日)

2月度皆勤バッジ

安里清榮(38年) 城間 一(6年)

ニコニコBOX(2026年3月11日)

合計 ¥4,000 累計¥199,000

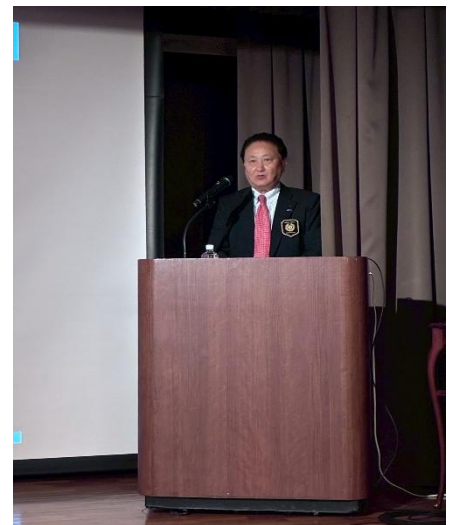
石垣 伸 井上君、今月卒業おめでとう!

来月からも大学院で研究の継続頑張って下さい

大城純市 バギオ基金の引き続いての皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会長挨拶

会長報告をさせていただきます。今月は「水と衛生月間」として、気候変動や環境汚染により水資源の重要性が高まる中、地域との連携、リーダーシップ、グローバルパートナーシップ、専門性、長期的視点のもの



と取り組みを進めていく必要性が示されました。特にポリオ問題においては、ワクチンだけでなく水環境の改善が重要であり、世界には依然として水に困る地域が多く存在します。

また、2月以降は三木会やワイン例会の開催、地区大会や合同例会への参加など、クラブ内外での交流を深める活動を行いました。加えて、尚学高校への寄付や子ども未来プロジェクトへの支援を実施し、地域貢献にも取り組んでおります。今後も他クラブとの連携を強化しながら、活動の幅を広げてまいります。

幹事報告

各 RC 例会変更及び休会

・那覇 RC (変更)

3月31日休会 定款第7条第1節d項(1)

・那覇南 RC

3月30日(火)休会 定款第7条第1節d項(1)

那覇西ロータリークラブ奨学生の井上結喜

昨年4月より奨学金を受給し、学部4年次の1年間は進学準備や資格取得に向けた勉強に専念することができました。アルバイトの時間を減らさざるを得ない中、本制度に大変支えられました。



今年24日に琉球大学を卒業し、4月12日より同大学大学院理学研究科へ進学いたします。今後は修士課程を経て博士課程への進学も視野に入れつつ、学芸員資格を活かした研究機関や博物館、水族館等への就職も検討しております。将来的には研究を通じて社会に貢献し、有用物質の発見や医薬品開発につながる成果を目指してまいります。短い間ではございましたが、1年間誠にありがとうございました。

卓話 大城純市会員

大城純一会員より、バギオ訪問についての報告がありました。今回は丸橋会長、比嘉会員とともに沖縄から参加し、東京組と合流のうえフィリピン・バギオを訪問しました。沖縄からは羽田を経由する行程となり、往復ともに時間を要する移動ではありましたが、その分、現地での体験は非常に充実したものとなりました。



バギオ基金は、戦後フィリピンに取り残された日系人の子どもたちを支援することを目的に設立され、約50年にわたり継続されている歴史ある取り組みです。その背景には、戦争の影響によ

り厳しい生活を余儀なくされた子どもたちの存在があり、シスター・ウノの呼びかけを契機として支援活動が始まりました。当クラブにおいても、これまで資金的支援や人材育成などを通じて本活動に関わってきており、その歴史の一端を担ってきたことを改めて実感する機会となりました。現地では、奨学金贈呈式に参加し、支援を受けている子どもたちと直接交流する機会を得ました。子どもたちは日本語の歌を披露するなど温かく迎えてくれ、交流の中で支援の意義を実感する場面が多く見られました。また、家庭訪問では学生とその家族と直接対話し、学業への取り組みや将来の夢について話を聞くことができました。奨学金が学びの機会を支え、将来への希望につながっていることを実感するとともに、訪問を通じて励ましの言葉を直接伝えることの重要性を感じたとのことでした。

さらに、小学校訪問ではランドセルや文房具の寄贈を行い、子どもたちの笑顔に触れることで、支援活動の持つ力を改めて認識する機会となりました。現地の子どもの純粋な反応や喜びの表情は非常に印象的であり、支援が確実に届いていることを実感できる場面となりました。

また、シスター・ウノの墓参りを行い、活動の原点に思いを馳せるとともに、長年にわたり継続されてきた支援の重みと意義を再認識する機会となりました。加えて、現地の歴史や文化、生活環境にも触れることで、支援の背景にある社会状況への理解も深まりました。

今回の訪問を通じて、支援は単なる寄付にとどまらず、人と人の直接的な関わりによってより大きな価値を生み出すものであること、そして何よりも継続することの重要性を強く実感したとの報告がありました。今後も本活動を継続し、さらに発展させていくためには、多くの会員が実際に現地を訪れ、その意義を体感することが重要であると考えられます。

最後に、バギオ訪問は支援活動だけでなく、現地での交流や文化体験なども含め、大変有意義で充実した機会であったとのことであり、来年度以降も多くの会員の参加が期待されます。